

三菱重工グループのマテリアリティ 2022年度の進捗状況

マテリアリティ 【責任者】	全社目標	進捗モニタリング指標 (KPI)	取組範囲	2022年度の進捗状況・取り組みトピックス
脱炭素社会に向けた エネルギー課題の解決  【CSO/成長推進室長】	三菱重工グループのCO ₂ 排出削減 Scope1, 2を、2040年 Net Zero	事業活動におけるCO ₂ 総排出量 (Scope 1, 2)を2030年までに50%削減し(2014年比)、2040年にNet Zeroを達成する	三菱重工グループ (国内・海外)	<ul style="list-style-type: none"> 2021年のCO₂排出量に準じ、2014年比で42%削減した。 2022年のCO₂排出量に準じ、2014年比で47%削減を見通している。 カーボンニュートラル経営に向けた基本コンセプトや各種制度を立案した。 三原カーボンニュートラル工場は、発電設備設置工事を着工した。(2023年度末に完成予定)
	2040年までにバリューチェーン全体を通じた 社会への貢献 Scope3+CCUS削減貢献を、2040年 Net Zero	バリューチェーン全体の排出量 (Scope3+CCUSによる削減貢献)を2030年までに50%削減し(2019年比)、2040年にNet Zeroを達成する	三菱重工グループ (国内・海外)	<ul style="list-style-type: none"> 2021年のCO₂排出量を収集し、ESG DATABOOK 2022にて公開した。 2022年のCO₂排出量に準じ、実績を収集している。
	2040年までにエネルギー供給側の脱炭素化に資する製品・サービスを 開発する (エナジートランジション)	2040年までにエネルギー供給側の脱炭素化に資する製品・サービスを 開発する (エナジートランジション)	三菱重工グループ (国内・海外)	<ul style="list-style-type: none"> 米国マクドノフ・アトキンソン発電所の高効率・大型GTCC発電設備で、世界最大規模の20%の水素混合燃料による混焼実証に成功した。 エクソンモービルと提携し、次世代CO₂回収技術の開発を促進するとともに、同社が手掛けるCCSプロジェクトに三菱重工グループのCO₂回収技術を活用することでCO₂回収から貯留まで一貫したCCS提案が可能になった。 既設原子力プラントの再稼働と安全安定運転に貢献するとともに、世界最高水準の安全性を実現する革新軽水炉「SRZ-1200」の基本設計を北海道電力、関西電力、四国電力、九州電力と共同で推進している。更に将来の多様化するニーズに応えるべく、将来炉 (小型軽水炉、高温ガス炉、高速炉等) についても開発を推進している。
	2040年までにエネルギー需要側の省エネ、脱炭素化、省人化に 資する製品・サービスを開発する (社会インフラのスマート化)	2040年までにエネルギー需要側の省エネ、脱炭素化、省人化に 資する製品・サービスを開発する (社会インフラのスマート化)	三菱重工グループ (国内・海外)	<ul style="list-style-type: none"> 英国セメント工場向けのCO₂回収プラントに関する基本設計を受注した。 産業分野へのCO₂回収装置適用拡大に向け、アルセロール・ミタル、BHP、MDP※1と製鉄分野へのCO₂回収適用に関し協業契約を締結した。 フォースキュー、フェストアルビーネおよび三菱商事と、当社の「HYFOR※2」を活用したグリーンステールプラントの共同評価に向けた覚書を締結し、検討を開始した。
炭素循環に資する新製品・サービスを開発・実証する	炭素循環に資する新製品・サービスを開発・実証する	三菱重工グループ (国内・海外)	<ul style="list-style-type: none"> 廃棄物の処理・利活用 (加水分解)、大型建造物の循環型デコミッションング等の実証に向けた検討を実施している。 	
AI・デジタル化による 社会の変革  【成長推進室長】	顧客や利用者に寄り添った便利でサステナブルな AI・デジタル製品の拡充	顧客課題解決に対応する高度なAI・デジタルソリューションの 新規開発件数(サービス、製品、R&D)を段階的に引き上げる	三菱重工グループ (国内・海外)	<ul style="list-style-type: none"> 次世代無人フォークリフト (ΣSynX) プロトタイプ機の基本性能を確認し、YHH※3で自動ピッキングソリューションの実証を実施している。また、知能化物流システムの開発を継続している。 海運向け省人化システムの開発を推進している。 産業機械の知能化運転システムの開発を推進している。 社共同研究で先進的な研究開発に取り組み、その成果をSBUに横断し展開して、SBUのAI・デジタル製品/サービス等のソリューションの開発を促進している。
	AI・デジタル化により適切かつ効率的に 電力需給を管理する未来型エネルギー マネジメントで、持続可能な社会へ貢献	お客様に地域の特性に応じた最適なエネルギーインフラの 提案を行う	三菱重工グループ (国内・海外)	<ul style="list-style-type: none"> 社会・経済・環境のバランス評価に基づく、地域の特性に応じた最適なエネルギーインフラの提案検討を、東南アジアで実施した。 カーボンニュートラル型EMS (エネルギーマネジメントシステム) 技術に、熱源機器のマネジメント機能を拡張し、社外での適用検証を開始した。
	クリエイティブな製品を生み出すための環境づくり	社員のクリエイティブな時間・環境に対する認識を向上させる	三菱重工グループ (国内・海外)	<ul style="list-style-type: none"> クリエイティブな環境として、以下を実施した。 社内コミュニティサイト (EKYO BASE) : 社内外連携企画を開催した。(8回/累計約3,000名参加) 新事業創生や組織風土改革に向け、当社社員と他社との対話・共創機会を拡大している。 未来設計タスクフォース : 共創に係る研究開発を実施し新規プロセス創出に取り組んでいる。 三菱重工グループ全体で2万人強のDI (デジタルイノベーション) 人材を育成すべく、DI人材育成計画を策定した。 CRM (顧客管理システム) を三菱重工グループ内展開、データ基盤運用、次世代ITアーキテクチャ策定を推進した。 2022年10月からYHHでの人材育成制度(研修制度)を開始した。
安全・安心な社会の構築  【CTO】	製品・事業/インフラのレジリエント化	各種災害による影響評価を実施し、レジリエンス性を追求した 設計・技術の開発、実用化を推進する	三菱重工グループ (国内・海外)	<ul style="list-style-type: none"> 製品・サービスの復旧力と抵抗力を軸としたレジリエンス指標を策定した。 SBU毎に目標設定に取り組み中であり、全31SBU中8SBUで設定が完了した。 「レジリエント化に向けたリスク評価と対策およびビジネス展開」に関する社内横断会議を開催した。 防災ビジネスの開拓を行った。(京都大学防災研究所との連携) 重工技報や国際会議 (AIK2023) で台風被害シミュレーションを発表した。 津波・台風・豪雨などの防災シミュレーションを社内7工場に対して実施した。 災害対策システムの検討を実施した。(原子力カセメント)
	製品・事業/インフラの無人化・省人化	製品・事業/インフラの遠隔/自動運転、遠隔/自動検査・点検に 向けた技術開発、実用化を推進する	三菱重工グループ (国内・海外)	<ul style="list-style-type: none"> 知能化物流システム(ΣSynX)無人フォークリフトのプロトタイプ機の機能を確認した。 自動運転社会の実現に向け、高速道路における路間通信 (ICT通信機能を有するコネクテッド車両とインフラ設備の無線通信) システムの検討に着手した。 防衛装備品の無人機開発を推進している。 紙工機械知能化運転システムの開発を推進している。 製鉄プラント向け監視プラットフォーム(Synx-Supervision)を納入した。 ごみ焼却プラントの遠隔監視・運転支援システム(MaiDAS)を実機検証し、主要学会で発表した。 シングルロータ型無人機ドローンによる保安点検を実証した。 フェリー高効率省人化システムを開発している。 人協働ロボット連携による航空機パネルのナット締め作業の自動化ソリューションを開発している。 排煙処理装置の熱媒検査システムで検査マップ自動生成機能を実証した。
	三菱重工全製品の継続的なサイバーセキュリティ 対策の深化	サイバーセキュリティ技術の開発、実用化を推進する	三菱重工グループ (国内・海外)	<ul style="list-style-type: none"> 2022年度のサイバーセキュリティ関連の研究開発投資実績は、2020年度比で3.0倍に増加した。 社内工場のセキュリティ耐性強化のため、ネットワークセキュリティ検知装置の評価検証を、相模原・YHH・小牧北などで実施した。 Charter of Trust※4で定めたセキュリティ基本要件を社標準へ反映した。 制御システムセキュリティ管理者会議を2回開催し、工場設備のセキュリティ対策を共有した。
ダイバーシティ推進と エンゲージメントの向上  【HR担当役員】	多様な人材による新たな価値創出	2030年までに役員に占める女性比率を30%以上に する	三菱重工半体	<ul style="list-style-type: none"> 将来の幹部候補社員に対して、HR部門と事業部門が連携し、計画的な指導、育成を継続している。 女性社員がキャリアを継続するため、育児/介護などに配慮したさまざまな支援制度の拡充に取り組み、仕事と家庭を両立しやすい職場環境、組織風土の構築を推進している。
	安全で快適な職場の確保	重大災害件数をゼロにする	三菱重工グループ (国内・海外)	<ul style="list-style-type: none"> 「三菱重工グループにおける人権尊重」に関する教育コンテンツ (e-ラーニング) を作成し、海外含む三菱重工グループ約7万5千名が受講した。
	社員を活かす環境づくりと健やかで活力にあふれ 社会に貢献できる人材づくり	社員意識調査による「エンゲージメント」スコアを 2030年度までにグローバル平均以上に向上させる	三菱重工グループ (国内・海外)	<ul style="list-style-type: none"> 協力社員の死亡災害 (1件) 発生に対し、速やかに再発防止のための原因分析を実施し、全社対策を立案の上、三菱重工グループ全部門へ展開した。 労働 (休業) 災害発生率は、同業種の事業者平均以下を達成した。 過去に発生した災害をベースに発生予兆検知や原因分析等を行い、部門横断で対策を検討・立案した。 2023年3月に第4回目となる三菱重工グループ社員意識調査を実施した。 社長タウンミーティングを国内4拠点で開催した。 パリスサーベイユールの全社展開および運用改善を継続している。
コーポレートガバナンスの 高度化  【GC】	取締役会審議の更なる充実	取締役会に占める独立社外取締役の割合50%以上	三菱重工半体	<ul style="list-style-type: none"> 独立社外取締役の割合を50% (12名中6名) とし、意思決定の迅速化と監督機能の強化を図っている。 2022年度の取締役会実効性評価として以下の取組みを行った。 全取締役に対してアンケート調査を実施した。 独立社外取締役会合で議論し、取締役会に実効性評価結果を報告した。 評価結果の開示文案と今後の対応方針を取締役に決定した。 合わせて2023年度の議程スケジュールの検討を開始した。
	取締役会の実効性を毎年評価し、実効性を確保・向上させる	取締役会の実効性を毎年評価し、実効性を確保・向上させる	三菱重工グループ (国内・海外)	<ul style="list-style-type: none"> 重大な法令違反や不祥事は無かった。 社内への啓発活動としてコンプライアンス遵守に役立つ事例を月次で公開した。 海外グループ会社向けに、該当地域固有のコンプライアンス関連情報を共有し、発生防止に努めた。 海外グループ会社におけるコンプライアンス通報窓口の設置を徹底している。
	法令遵守と誠実・公平・公正な事業慣行の推進	重大な法令違反・不祥事ゼロ	三菱重工グループ (国内・海外)	<ul style="list-style-type: none"> 国内外の社員向けに、以下のコンプライアンス推進教育を実施した。 国内：Eラーニング・ディスカッション研修・階層別教育 海外：Eラーニング
	CSR調達グローバルサプライチェーンへの 更なる浸透	サステナブルなサプライチェーン構築に向け、パートナーと協働で サステナビリティ・CSR調達活動を推進する	三菱重工グループ (国内・海外)	<ul style="list-style-type: none"> 継続的に一定額の発注がある海外のパートナー企業にCSRアンケートを実施し、「三菱重工グループサプライチェーンCSR推進ガイドライン」への同意を取得した。 パートナー企業に定例で依頼するCSRアンケート発信時にCSR調達教育資料を合わせて配信し、各社内への理解・浸透についての確認を行った。 事業説明会・パートナー会議の場でCSR調達教育を実施した。
非財務情報の説明機会創出	ESG説明会の年1回実施を継続する	三菱重工グループ (国内・海外)	<ul style="list-style-type: none"> 2023年3月にESG説明会を開催し、サステナビリティの取り組み体制やマテリアリティの内容及び進捗状況などを説明した。 	

※1 MDP (Mitsubishi Development Pty Ltd) : 三菱商事の完全子会社であり、50年以上にわたる鉱物資源分野の事業開発を通じて産業界に貢献している

※2 HYFOR (Hydrogen-based Fine-Ore Reduction) : プライメタルステックプロセスが開発された、鉄鉱石選鉱時に発生する粉鉱石を直接還元する新しいプロセス

※3 YHH (Yokohama Hardtech Hub) : 三菱重工が横浜・本牧で運営するものづくりの共創空間

※4 Charter of Trust : サイバーセキュリティ信頼性構築のための民間企業レベルの活動。当社は2019年4月より参加